



届きましたか？

## 20周年を祝う集い

のご案内

12月7日の理事会で「20周年を祝う集い」の案内書類封入作業が行われました。理事さんが手渡して下さる方は持ち帰っていただき、その他は発送しました。無事届いているでしょうか？記念事業企画委員会では、3月6日の「集い」を大いに楽しんでいただき、一緒に同窓会の発展を祝える集まりにしていきたいと準備中です。是非ご出席ください。

出席される方は、同封葉書に氏名、連絡先を記入し、**1月10日までに**投函されるか、プラザ事務所に設置してある「同窓会用ポスト」に入れて下さい。



## 各クラブの現況は？

第2回全クラブ代表者会議報告  
11月18日（木）

会長の「クラブ活動部会は同窓会の根幹」の挨拶で始まった代表者会議。それぞれのクラブの現況が報告されました。グリーンクラブ、太極拳クラブは人数減少等により代表者会議から抜け、16クラブとなった中、対面での活動が多い7クラブが新型コロナの影響で活動休止中でした。チョボラの会からは、「昨年1月から活動休止。施設では感染リスクを考えて外部の人間はシャットアウト。施設内の方は認知が進み、ボランティアが入らないので職員の負担が増しているのではないかと心配している」との報告が……。どこもコロナの様子を見ながら、活動再開を模索していました。他の9クラブは感染対策をしながら活動中。「クラブの活動で人生が豊かになっている感じがする」「うちは、我々の生活をどのように楽しくするかがテーマの老人哲学の会」「プラザにもスペースがあれば卓球台を置いて、皆で楽しみたい」等々の声が……。 「さりねの意味は？」の質問もあり、「狭山の里のうたからさりねと名付けられた」との答えに、一同思わず「へえ～！」「知らなかった！」新しい発見もあった時間でした。

## 今年の地区割りには6地区で

第42回 理事会報告  
11月22日（月）

20周年記念式典の報告の後、今年の地区割りの提案がありました。各地区の人数を平均化するため、今年は市の地区割りを元にした6地区で行うことに決定しました。地区活動については、「たくさんの方に同窓会活動に参加していただくには440人の組織では難しいので、地区毎の活動も取り入れる」との再確認があり、話し合いが始まりました。「近所なので声をかけやすい。地域の特性も反映し易く連携も容易となる」「全体での活動は内容や場所が限られる。これまでできなかった活動をプラスできる」「地区内で知らない会員が多数いる。知り合えたら良いと思う」「つながりが薄い地域もあるが、高齢化社会を考えるとこれを機会に進めていければ良い」との賛成意見の他、「同窓会の原点はクラブ活動」「自身の入会のきっかけはクラブへの入会。同窓会活動を活発にするには、クラブを充実していくのが良いのでは」「いきなり地区で活動するのではなくて、少しずつ進めていければ良いのではないか」等の意見もありました。最後に黒川事務局長が、「同窓会の原点は学んだ事を地域で活かしていくこと。今回はその理念を少し変えて『楽しんでいこう』という方向にシフトしていく。全体の活動、クラブ活動、地区活動のどれを楽しんでいただいても良い。気楽に参加してもらえるようになれば良い。」とまとめました。

## 話すことは手放すこと … まずは傾聴を



12月11日(土)、狭山市市民交流センターで「第3回 狭山市犯罪被害者・交通被害者支援を考える講演会(オリーブ主催)」が行われました。対話形式で行われた第1部は、傷害事件で夫を亡くされた谷口さんの体験談。旦那様の事件当時の様子、裁判での加害者への思い、仮釈放決定時の恐怖等々、身につまされるお話でした。

第2部は埼玉犯罪被害者救援センターNNVS認定コーディネーター 竹山律子さんの「被害者の方の心情と置かれている立場」のお話でした。被害後の被害者の心の動きや、心身、日常生活、経済面等への様々な影響が語られました。そして、言葉がけのNGワードとして「頑張って」「元気出して」「くよくよしてもしかたない」等が話されました。大事なことはそとよりそうごと、まずは話を聞いてあげてくださいとのことでした。「話すことは(被害に遭った際の様々な感情を)手放すこと」だそうです。1部の谷口さんも、「わらをもつかむ思いで電話し、支援していただいた。一人では乗り切れなかった。応援してくれて今の私がいる。恩返しのため今日この場に立っています」と話されていました。

第4回は来年2月5日(土)午後1時半より「交通犯罪被害者遺族として」の講演があります。参加希望の方は六車徳誠さんまで。(携帯 080-6548-4599 メール ntbkc196@yahoo.co.jp)

### ● 『散歩の醍醐味』 尽きない冒険 ② ●

入間川を中心に、台形・すり鉢状の地形をなす狭山市の東側の丘陵地帯の麓を探索した。東側は、通勤・買い物等で新狭山駅・狭山市駅に行くときに頻繁に通過するのであるが、地形散歩という観点で眺めることはなかった。

自宅から、入間川に架かる入間川大橋を渡り、新狭山駅へ行くバス路線沿いを歩いて行くと、左側に至聖病院が見えてくる。お世話にならないことを祈りながら、横目で見ると、100mほど進むと、交差点に到達する。東側丘陵の麓と考えられ、登り坂を直進すると、国道16号、新狭山駅へと続いて行く。信号の左側に八雲神社、右側に西武文理小学校がある。大昔には、入間川の浸食作用がここまで達していたと考えると深遠な時の流れを感じる。交差点を右折して、丘陵の麓沿いの道を辿って行くと、左側は雑木林が点在し、所々にマンション、奥富神社、こひつじ保育園などが続く。右側は住宅地帯となっている。更に、麓を流れる川(農業用水路)沿いの道を辿って進むと、左側の小高い丘に狭山清陵高校の校舎が見え、その奥に山田電機の大きな看板が見えてくる。

ここから先は、左にうっそうとした雑木林、右に、広々とした田んぼとなる。既に稲刈りが終わり、稲を日光で自然乾燥する昔懐かしい稲架掛け(はざかけ)が見える。遠い昔、自然乾燥法に対抗して、籾乾燥機に取り付け、オンラインで籾の水分を計測する水分計を開発していた。精力的に情熱を注いだ若い頃が、懐かしく蘇ってきた。稲藁・土・木の葉の入り混じった田園の匂いは、その時と全く変わっていない。稲を切り取った株から青い芽が出ている様子も50年前の昔と同じだ。まもなく、有料道路(現在無料)と国道16号の交差点(上奥富交差点)に出た。万歩計は8,000歩を越えていた。この先の更なる進行は、次回に車で近くまで来て、続きを散歩することにした。(松本功さん)

